

白虎隊士飯沼貞吉の回生

飯沼一元著

大河ドラマ「八重の桜」の舞台になつてゐることで、改めて脚光を浴びてゐる会津藩。当地であつた白虎隊の悲劇も広く知られるが、「怪しげな逸話が脚色され、喧伝されてきた」との著者の問題意識から本書は生まれた。

「お城が燃えている。落城した。殿の後を追おう」といつた白虎隊集団自刃の通説、自刃に失敗した唯一の生き残り



闘経緯と自刃に至つた理由など、自らのルーツを10年がかりで解明していく。ブイツーソリューション・税別1,800円

り飯沼貞吉は敵である長州藩士に養育されていた……との話が伝わるが、真実なのか。その貞吉の直系の孫にあたる著者は、祖父の遺品から自筆の「白虎隊顛末略記」を発見。同書などから、白虎隊37人の戦

り飯沼貞吉は敵である長州藩士に養育されていた……との話が伝わるが、真実なのか。その貞吉の直系の孫にあたる著者は、祖父の遺品から自筆の「白虎隊顛末略記」を発見。同書などから、白虎隊37人の戦